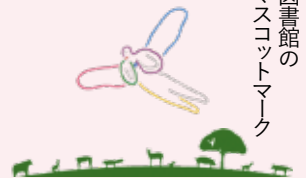




特集1 地域に密着した移動図書館「あかつき号」

人と本をつなぐ出会いの場



図書館の
マスコットマーク



図書館という枠組みを越え、地域に寄り添い本を届け続けてきた移動図書館。各地で図書館が建設されて役目を終えたり、ステーションの確保や図書館の運営が困難で廃止になったりと、現在運行している自治体は県内で2つになりました。人と本をつなぐ役割を担い、貴重な存在になっている本市の移動図書館「あかつき号」に迫ります。

問合せ 図書館 ☎ 22-0551

新車両はバリアフリー対応

スピーカーから流れる「沼田の歌」とともに、公民館や住民センター、小学校などに現れる移動図書館「あかつき号」。森の動物たちと空をかけ巡る少年が描かれたクリーム色のワゴンが、本を積んで市内各地に届けます。

図書館は市街地にあり、遠方に住む車に乗れない高齢者や小さな子どもがいるママさんなど、利用しにくい人へのサービスを広く行き渡らせるために始められました。現在は月に11日間、45カ所を巡回し、車両に設置された棚には、小説や実用書、絵本など約2500冊が並びます。移動図書館だけで年間1万3000冊が貸し出され、次の巡回までに入れ替えて新しい本を届けていきます。

平成6年、市立図書館オープンと同時に、これまでのミニバンの移動図書館車を買替え、ワゴンタイプを購入。約26年間、地域に本を届けてきた「二代目あかつき号」は、昨年11月20日の運行を最後に役目を終え、12月に更新されました。

新車両は車イスで入れるバリアフリー対応、車両の両サイドに備え付けたテントは雨よけとして活用するほか、外の開かれた空間でのびのびと本に触れ合えることをイメージして作られました。図書館オープンの際に、市の森林文化都市宣言に基づいてデザインされ、車両に描かれた